

那覇西ロータリークラブ

国際ローター-2580 地区 創立 1962 年 6 月 4 日

2022年3月30日 週報 第2648号



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

那覇西 RC 年間テーマ
「沖縄の未来のために
地域に貢献しよう!」

プログラム案内

四つのテスト

- | | |
|---------------------|------------------------------------|
| 1. 真実かどうか | 本日のプログラム |
| 2. みんなに公平か | 3月30日(水) |
| 3. 好意と友情を
深めるか | ・点鐘
・ロータリーソング
日も風も星も |
| 4. みんなの為に
なるかどうか | ・会長報告
・幹事報告
・立食

・次回予定 |

例会報告

第2765回(2022年3月23日)

出席報告

会員数	出席数	欠席数	出席率	前々回 訂正出席率
56名	28名	25名	53%	65%

欠席会員

仲本(榮)、新里、上原、大城(博)儀部、宮内福重、久保、渡慶次、城間(久)、丸橋、小林、城間(巖)、中村、石垣、堀井、龍、水城、比嘉(良)、仲本(幸)、照屋(紀)、中野、松野下、瑞慶山、小豆澤会員

1 月度お誕生日祝い

大庭 憲(1月3日) 城間 巖(1月4日)
儀間聖輝(1月15日) 慶佐次 操(1月15日)
崎原信一(1月18日) 中村 敦(1月22日)
城間久美子(1月25日) 松野下秀峰(1月27日)

2 月度お誕生日祝い

名幸俊海(2月2日) 大城純市(2月5日)
豊村良春(2月9日) 城間 一(2月23日)
高田和泰(2月26日)

会 長 慶佐次 操 副会長：比嘉芳直・大庭 憲
幹 事：平尾慎一郎
例会日 毎週水曜日 12時30分
例会場 沖縄ハーバービューホテル
事務局 那覇市松山1-1-14 那覇共同ビル6階
TEL：861-7824 FAX：861-7825

3 月度お誕生日祝い

大仲良一(3月5日) 宮内一郎(3月11日)
仲本幸平(3月12日) 大城博成(3月17日)
照屋俊幸(3月20日) 小豆澤卓也(3月29日)
12月度皆勤バッジ
大庭 憲(10年)
1月度皆勤バッジ
石川正一(39年) 小林 充(5年)
2月度皆勤バッジ
安里清榮(34年)

ニコニコBOX

合計¥2,000 累計¥235,000

大城純市 NHK 朝の TV 小説ちむどんどんの放映が4月から始まります。とても楽しみにしています。

会長報告 慶佐次 操

皆様こんにちは、雨で足元の悪い中例会出席ありがとうございます。本日も3件ご報告申し上げます。
1.新聞記事とメール情報からです。

①3/20(日)沖縄
タイムス：
NTT ドコモ九州支社沖縄支店の龍秀樹(会員)支店長らは16日、県と漁業関係団体でつくる「JF 沖縄軽石



対策協議会」に軽石被害の支援として100万円の寄付をしました。龍支店長は「軽石の漂流で被害を受けた漁業関係者が、早く操業できる事を願っている」と話した。

②3/23(水)琉球新報：比嘉良友(会員、琉銀安謝支店長)が、りゅうぎんビジネスサービスの代表取締役就任。

③3/20(日)：浦添 RC、主催、瀬長島ビーチクリーンを行いました。那覇 RC、那覇東 RC、当クラブから糸洲会員がメイクアップ参加してもらいました。

2. 「60周年記念事業」の活動報告です。

①本日14:00~琉球新報にて「おきなわこども未来ランチサポート」への寄付金贈呈式のため訪問致します。(4/24(木)の朝刊に掲載されました)

②18:30~「那覇青年会議所」の理事会訪問を行います。4/13(水)の「第2回献血デー」への協力依

頼、5/25(水)の「オープン例会」・6/18(土)「60周年式典・祝賀会」の案内及び当クラブ入会へのPRをしてきます。

3. 「ロータリーネットワークがウクライナ難民に迅速な人道支援」

- ①欧州や世界各地のロータリークラブとローターアクトクラブが、周辺地域の会員と共に、難民に迅速な救援活動を行っています。食糧、水、医療、シェルターの提供などを行っています。
- ②ポーランド：オルシュティン RC は、身寄りのない難民の子ども達に、食料、衣類、洗面用品、おもちゃなどを支援しています。
- ③ハンガリー：キシュバルダ RC は、募金を取りまとめ会員総動員で生活必需品を難民に届けています。
- ④ルーマニアとモルドバ：ロータリー会員は、寄付の窓口となる基金を設置し、食糧の寄贈や難民の宿泊手配を支援しています。
- ⑤スロバキアとチェコ：クラブが鉄道・貨物会社と提携し、約 2,300 人の難民の移動手段を提供しています。
- ⑥日本では「公益財団法人ロータリー日本財団」が各クラブからの寄付の取りまとめを行っています。当クラブでも 4/6(水)の理事会承認の上、救援金を寄付予定です。

幹事報告

先週もご案内しましたところですが 5 月 31 日開催の地区大会の申し込み締め切りが 4 月 8 日(金)13 時必着になっています。クラブはまとめて申し込みする予定ですので皆様には 4 月 7 日(木)中に申し込み頂きたいと思っております。あともう一点、先週ご案内しました会長ヤング杯ゴルフコンペに現在 9 名のお申し込みを頂いています。残り 7 名で先着順になっていますので早めのお申し込みをお願いしたいと思います。



ポールハリスフェロー表彰 三浦勉会員

ポールハリスフェローに 10 年間寄付をなさった方への表彰です。



卓話 ジョンソン美枝会員

前回沖縄コングレの事業紹介をする機会を頂きましたが、時間切れで不燃焼だったこともあって再度同じ内容をご紹介させて頂いていいという風にチャンスを頂いてありがとうございます。そのあといろいろ進捗がありましてホットニュースもあり今回のタイトルは沖縄の MICE「沖縄を国際機関の先進地にそして目指せ世界ランキングトップ 10 入り」と言うのを付けて発表させて頂きます。

最初に私の簡単な自己紹介でもう 2 年目になりますけども 1967 年生まれで 55 才になりました。神奈川県横浜市出身おきなわ在住歴 27 年まだまだ沖縄を楽しみながらドキドキ旅の途中です。私の沖縄コングレと言う会社のどういうビジネスかと言うとプロフェッショナルコングレスオーガナイザーと言って国際会議とか MICE ビジネスと今言われていますが、コンベンションシンポジウムとかイベント展示会などを誘致したり企画したり運営したりする専門的な生業を PCO と言う風に言っています。沖縄コングレの中にはコンベンション部というイベント展示会とかそういう会議をやる部署と翻訳通訳を担っている部署、そして以前は小さいところから始めたんですけども最近コンベンション部と同じくらい成長してきた指定管理施設運営部門という 3 部門があります。本日はそういった会社の沖縄の事情をからめながら 3 つお話させて頂こうと思ってテーマをだしました。

まず、沖縄での閣僚会合開催要請と言うホットニュース、そして MICE 国際会議開催の経済効果、それから当社がコンベンション主軸と言う国際会議を DNA で始まった会社から事業転換していかねばならない時期に来ているという 3 つについてお話させていただきます。

先ほど申しましたホットニュースなんですけども、3 月 8 日に玉城知事が中央政府に行きまして 2023 年の閣僚会合を沖縄で開催してほしいと言う事で 2023 年には G7 首脳会合があるのでそれに関連する大臣会合を沖縄で開催してほしいということを要請に伺いましたと言うホットニュースがでました。どの会合を名指したのかと言うと環境大臣会合、情報通信大臣会合、科学技術大臣会合の 3 つを要請しています。どれも沖縄に関連の深い会合ばかりということで、今誘致に向かっているところです。ところが誘致合戦がオリンピックと同じくらい非常に厳しくて、例えばこの G8 の北海道洞爺湖サミットこれも当社が運営をさせて頂いたんですが、首脳会合の他に閣僚会合が 10 ありまして開催地も北海道、京

都、大阪、青森、横浜、新潟、千葉、神戸と観光先進地がこぞって是非当地でやってくれと言う風に誘致合戦を繰り広げます。この時は沖縄が科学技術大臣会合 OIST 大学院大学が設立されたこともあって誘致に成功して開催されて当社も運営のお手伝いできました。ところが次の伊勢志摩サミットでは沖縄県は手を上げていませんでした。とても残念で一切開催してほしい手も上げず中央政府とのリレーションと言うところも有ったんだと思うんですけども、開催実績が無いまま伊勢志摩サミットは閉幕してしまいました。そして次が来年の G7 サミットなんですけども沖縄に是非と言う事で手が上がっています。この MICE 国際会議開催、こういう大臣会合やシンポジウムセミナーを誘致して開催することで経済効果があるのか?沖縄にとって良いことがあるのか?ということをお社の裏話をまとめながらご紹介したいと思います。

まず、沖縄県が MICE 振興戦略として 2017 年から 10 年間の計画で上げたものがありましてそれが MICE 開催誘致方策というものです。これで MICE と言うのは何があるのかと言うと MICE の MEETING、INCENTIVE、CONVENTION、EVENT という MICE なんですけど、その中で来年誘致したい閣僚会議はコンベンションの C になります。それ以外にも企業の投資家向けの大型の会議や国際会議、商談会それから国際展示会などなども沖縄から発信したり海外から誘致したりして沖縄でかなり開催件数が上がってきています。この MICE 振興戦略を打ち出したところに具体的に 3 つの方針が出されていて、リゾート資源を活かした企業ミーティングの誘致、産官学の大学と産業界とのコンベンションを開催していこう、そして最近ではアジア経済戦略課と観光振興課がコラボレーションして観光と産業を結び付けを狙いに、アジアの活力を取り込む商談会や見本市をやっていこうと言う事で打ち出されてきています。それらはビジネスの機会を見出したり、沖縄の競争力を沖縄をグローバルに轟かせて皆に知ってもらったり経済波及効果をもたらしたりと言う事があるんですけど、具体的な例言う前にそんなに良いことがあるのに沖縄って今何位かって言うと世界ランキング 42 位なんです残念ながら。競合地のシンガポール、ソウル、台湾、バンコクって沖縄の東アジアの地域がトップ 5 に入っていて開催の国内の競合地の東京や京都で東京はトップ 10 入りしています。なので私共の会社の使命としては、この 42 位の沖縄を何とか 30 位以内 20 位以内までランキングアップさせたいというところがあって開業以来 20 年励んできているところがあります。国際会議を開催してどんな成長があるのか具体的な例ですが、当社が運営を担った IMF 世界銀行年次総会というのが東京で開催されましてその時のドキュメンタリービデオをフルカットでご覧ください。海外の国家元首が沖縄に一堂に会してこういった場面が繰り広げらるという事を想像しながら見て頂きたいと思えます。スタッフたちの真剣な取り組みが無かったらこの会議は成功できなかっただろうと議長がコメントしています。チームのワーク以外に受け入れ地の皆さんのホスピタリティおもてなしというのも開催の成功に寄与している。沖縄のおもてなしや島に限られた資源があってそこにいろいろ方がいらっしやるとゴミの問題とか環境破壊の問題が起きるので美し

い自然や環境が破壊されない様に開催していく配慮も必要になってきます。このメイキングビデオも当社で制作したのでこのような音を入れたりドキュメンタリーを撮ったりして Web 上で世界に発信していくことも私たちの発信事業の一つとなっています。

経済効果についてなんですけど、主催開催が持つ 2 つの財布と言われてまして 1 つは主催の予算による会場設営やいろんな手配物が地域の経済にもたらす効果があります。もう一つは参加者がお土産を買ったりホテルで飲んだり食べたり観光したりと言う事で 1 つの MICE コンベンションを沖縄に誘致することで大変大きなお金が落ちてくきます。1 人当たり国際会議で 7.8 万円くらいの消費があるという風に言われています。

また会場設営の裏話なんですけど、表向きに安部さんとオバマ大統領が立っているポデュームと言う演題の下に高さを合わせるような仕掛けを作ったり、それからすごく長いテーブルの 1 枚の布でクロスを作ってくれと言われ出来上がったならアウトリーチと言っているような主要国以外の国が集まって討議するテーブルを特別に作ったり、またはプレスで発表される首脳陣の写真の裏側には組み台を作って多くのプレスを案内して、プレスのデクレーションと言ってやっちはいけない事撮っちはいけないカットというのをきちとこちらで広報班が説明してプレスを引き回して台も作って、乗るスクラフォードと言う足台も作って写真を撮っていくという作業をしていきます。それから執務室というのを代表団が全部入る部屋を作ってそれが全部内線で結ばれるようにするんですけど、例えばコンベンションセンターの展示棟に部屋 1 個 1 個作っていくって言う作業もしていきます。そのための多くの施工業者さんや工事業者さんたちに発注がいきます。もの凄い高額の予算で発注していくと言う事になっていきます。

それからメディアセンターというのを作っているいろいろな国と繋ぐんですけど、このメディアセンターを繋ぐのに大変太いケーブルが必要になっていて、伊勢志摩ではケーブルも LAN も高速スピードも何も無い中で首脳会談をしなきゃいけない現場だったので当社の方で NTT さんに何か月も前から事前工事に入って頂いて、場所はホテルですがバルコニーから高速ケーブルを通して首脳陣の側近の方々が高速スピードの LAN で仕事出来る様にメディアもプレスも含めて何か月も前からインフラ整備していきます。

それから警備は警察の車列の大統領が通るときは信号を止めてドリルと言って警察と白バイが先導して信号を止めた状態でどういう経路で大統領が通るかっていうのも全部シュミレーションします。そういうことも沖縄で開催するときは行われます。

あと同伴者プログラムと言って首脳陣には必ず奥様が同伴されて来沖されますのでそういう時にはレディースプログラムと言って奥様が各地域の学校や子供たちとレクレーションしたりプログラムをしたり沖縄県内にいる子供さん達もそういった海外の方やハイクラスの方や首脳陣の奥様と触れ合って頂くというプログラムをコングレの方で組んでご案内したりします。

皇室対応をプレナリーと言うんですけども皇室もいらっしやるのでその為の行幸啓と言いますが皇室の方が事前に沖縄にいらっしやって行幸啓の警備の検

査をされて天皇が登壇されるという段取りをとったりもします。

それから沖縄で閣僚級会合が開催されるワシントンDCを通して世界各国にその様子が配信されたり、あとグローバル的に遠隔地で海外開催されたワークショップや会議をこちらと繋いだりして交流交信させたりという作業も行います。IMFの時ですがオフィスが600室必要ですが数が無いのでホテルの宿泊部屋を一夜にした事務室に変えたりします。600室作ってくれと言われたYes Butでやりますがお金掛かりますよとかなり開催地にはいろいろな発注がされます。ハイヤーも1000台手配してくれとその台数は日頃の沖縄には無いので本土から持ってきたり、警備員もIMF東京開催の時は1500名配置したので全部の警備保障会社がコラボレーションでJVを組んでセッティングしていきます。

貨物の入りも大臣の会合が沖縄で開催されるとなると空港を介していろいろ荷物や自国の部品や備品投入されてきますので貨物の流れも激しくなります。

プレスセンターも作ったりしていろいろな会場設定がされていきます。そういった国際会議や国際機関を沖縄に誘致する事で子供の教育や将来の夢職業が変わっていく見目が変わっていくと言う事もあつての効果にもなっていくということでずっと誘致開催に取り組んでいます。

沖縄の事例なんですけど、名護に万国津梁館と言うG8が開催された会場と中部にOISTの中にもホールと研究室があります。それからコンベンションセンターそして今沖縄県は大型MICE施設を建設しようというところで計画が進んでいます。また沖縄で開催された子供たちを中心にした世界津波の日というので国際会議が開催され沖縄会場の当社が制作したドキュメンタリーがあるのでご覧ください。トロピカルビートでドローンで参加した高校生全員を撮影した動画を記念に持って帰ってもらったんですけどもこの時は議長から司会から進行から全部英語で沖縄の出身の高校生が全部になって進行進めていきました。それをいきなり高校生たちにやっていやうってと言っても無理だったので開催の2ヶ月3ヶ月前からチューターを入れて勉強会を繰り返して自分たちで進行台本を書いて練習して本番を迎えとって高校生たちが頑張ってくれたので本当に良い開催になって、またテーマも良かったなということで最近地震やら津波やら震災や災害が地球温暖化で多かったのそういう事をテーマに話し合ってくれたので本当に良い開催ができました。

コンベンションセンターはとても美しいトロピカルビーチの真ん前にあるのですが、中は2500㎡しかなくていまそこそこの展示会をやろうとすると5000㎡から7000㎡は必要で最近ではコロナで密が無い様になっているので非常に広い会場が必要になります。その広い会場が出来るのを待っていてもなかなか開催にこぎ着けられないので、私ども運営会社でテントの中に装飾を用いてテントの中と感じられない様に会場を作ったり、宜野湾市の体育館を晩餐会の会場に変えて1500名を会して頂いたりと言う風にユニークベニューな場所づくりを提案して開催に持ち込んで頂いている実状もあります。航空業界の商談会の運営もさせて頂いて宜野湾体育館での1500名での晩餐会でハーバービュー様がJVで晩餐会のお食事を提供して下さったことがありました。それ

からセッション会場も足りなくて展示棟に暗幕を張って講演会の会場を作ったりしています。トロピカルビーチにホテルからケータリングを出して頂いてビーチパーティーを県外の方々1000名ぐらいが集まって頂き楽しんで頂いています。トロピカルビーチで7000名で医学会の集まりをやって頂きました。それ以外に美ら海水族館の前でパーティーをやって頂いたり、大家(うふや一)という古民家を楽しんで頂いたりしています。いろいろなユニークベニューのパーティーを楽しんで頂いて観光×産業で経済波及効果をもたらしていこうと言う事でやってきましたが、コンベンション主軸でやってきて20年になろうとしていまして企業は生き物寿命は30年このままずっと同じ形で30年過ぎて行って会社が発展していくのかと立ち止まって考える時期にきています。そこで後10年どうやって脱皮して改革していかないといけないのか、ここまで観光コンベンションを盛り上げて誘致に踏み切ってきて一生懸命地域と共にやってきましたが、今後は指定管理部門施設運営の方を拡大して行こうと言う事で2019年から事業転換をしています。コンベンション運営1本足打法からファシリティー施設運営の方の事業も拡大させようと言う事で、2019年にてんぶす館、2021年なは一との会館と共になは一と、2022年4月からくる糸満の指定管理者を受託させていただく事になりました。その後コンベンションセンターの指定管理、先日クローズダウンした北部のテーマパーク構想に参入していきたいという風に展望を持っています。そういった会社ですが、テーマがコンベンションではなくまちづくりの総仕上げ地域のあらゆる問題解決には観光が関わっていると言う事で当社が最近上げているのが、エリアソリューションで観光コンベンション誘致開催だけでなく観光施設に携わりまちづくりやその周りでのイベント開催や出来事のコトを起こして行こうと取り組む様になっています。以上当社のご紹介をさせて頂きました。ご清聴ありがとうございました。

